

(表紙写真)

野口病院管理棟

別府市野口中町6-33、市道3軒町此花町線と中間通2号線の交差点に野口病院管理棟がある。

初代野口病院長、野口雄三郎(明治14年11月19日～昭和17年7月24日)が、福岡県公立若松病院長の明治9年にバセドウ氏病専門病院建設の候補地を物色していた。初め野口博士は、別府などの田舎に落ちつくつもりはなく、現に復興院の副総裁であった松本幹一郎や常時山下鑛業の総務をしていた柳田友麿などは、今の小田急沿線大山園附近の土地を選定し、野口博士を東京に引き出すべく計画し、その話はたいぶ進行していた。

これを知った福岡県若松の石炭王、佐藤慶太郎(明治元年10月9日～昭和15年1月13日)は、主治医である野口博士と離れ難い気持から東京の決定直前に、別府町大字別府1680番地の土地を大正9年5月19日取得し、野口博士の引き止めに成功した。

佐藤慶太郎は、さらに野口病院建設中に16万円を投じた。野口病院は、日本最初のバセドウ氏病専門病院として大正11年7月15日開設した。

因に、大分県統計書によれば、大正11年外来患者3,043人入院患者5,067人を記録している。

佐藤慶太郎は、晩年、野口病院の道路離てた南側に昭和9年6月12日佐藤別荘を新築し過ごした。

本建築は木造2階建てのドイツ風建築である。四角錐の尖頭屋根(トンガリ帽子の赤い屋根)をもつ玄関部分を中心軸に両翼に半切妻洋瓦葺屋根をもち、左右対称形の均整のとれた外観は、全国に誇る医療内容にふさわしい格調の高い堂々とした品格と権威を示している。

戦後米軍駐留施設として接收された一時期を除いて昭和45年まで病院本館であった。昭和61年に管理棟として本格的保存再活用をめざして大改修工事を行い、外観については出来得る限り創立当時のたたずまいを復元した。

平成8年12月20日、国の歴史的景観に寄与しているものとして「国登録有形文化財」に指定された。

[文責：外山 健一]